

H24-D1-1 深度60.12~60.15m 最新活動面の位置 (No.最-10) , 断層ガウジの幅 (No.最-11) の変更

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料2

敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料2 性状一覧表

参考2-33頁

第833回審査会合 机上配布資料2に追記(青太枠)

2.D-1破砕帯
性状一覧表(5/12)

試料番号	試料名称	試料採取 工区深層(下層深層) 深さ(m)	試料 形状	試料 長さ(m)	試料 直径(mm)	試料 重量(kg)	試料 状態	試料 色	試料 臭	試料 備考	断層ガウジ		断層ガウジ 幅(mm)	断層ガウジ 位置	断層ガウジ 状態	断層ガウジ 色	断層ガウジ 備考	断層ガウジ 位置	断層ガウジ 状態	断層ガウジ 色	断層ガウジ 備考	
											幅(mm)	位置										
H24-D1-1 最-10	...	4.40	0.1
H24-D1-1 最-11	...	37.60	0.2

試料番号	試料名称	試料採取 工区深層(下層深層) 深さ(m)	試料 形状	試料 長さ(m)	試料 直径(mm)	試料 重量(kg)	試料 状態	試料 色	試料 臭	試料 備考	断層ガウジ		断層ガウジ 幅(mm)	断層ガウジ 位置	断層ガウジ 状態	断層ガウジ 色	断層ガウジ 備考	断層ガウジ 位置	断層ガウジ 状態	断層ガウジ 色	断層ガウジ 備考	
											幅(mm)	位置										
H24-D1-1 最-10	...	48.90	0.1
H24-D1-1 最-11	...	48.30	0.2

凡例
最新活動面 ← → : 破砕帯
断層ガウジ : 断層ガウジの取付位置が認められる箇所
赤矢印 : 断層ガウジの幅を示すカラーバー
No.最-10 a (赤矢印位置)
No.最-11 b (断層ガウジを示すカラーバー)
No.最-11 c (断層ガウジを示すカラーバー)

凡例
最新活動面 ← → : 破砕帯
断層ガウジ : 断層ガウジの取付位置が認められる箇所
赤矢印 : 断層ガウジの幅を示すカラーバー
No.最-10 a (赤矢印位置)
No.最-11 b (断層ガウジを示すカラーバー)
No.最-11 c (断層ガウジを示すカラーバー)

※1 断層区分の組合せ対応に基づき
※2 斜めボアリングの場合は、計測値を
※3 卓越しない成分については「-」を
(上記以外): データを取得していない

H24-D1-1 深度60.12~60.15m 最新活動面の位置 (No.最-10) の変更

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料 1

敦賀発電所 2号炉 敷地の地形, 地質・地質構造について

参考資料 1 薄片観察結果

参考1-25頁

第833回審査会合 机上配布資料1に追記(青太枠)

No.最-10
深度60.12m

No.最-10

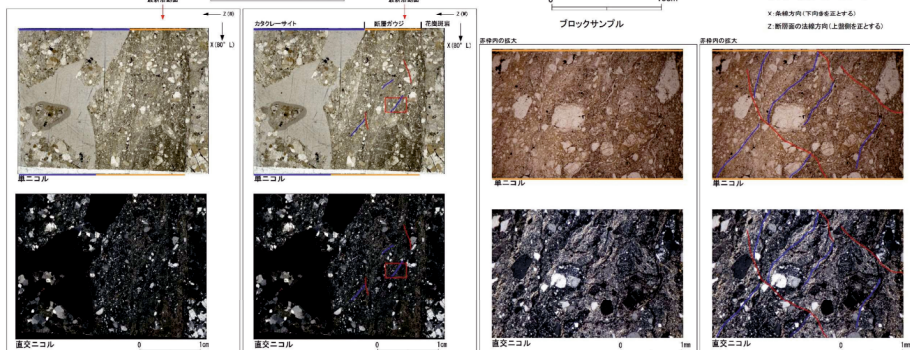
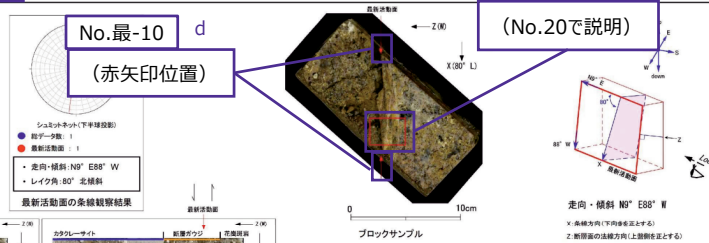
(フォーム見直しにより数値の記載なし)

D-1破砕帯 薄片試料観察 (H24-D1-1 深度60.12m)

H24-D1-1のボーリングコア(深度60.12m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、正断層成分が卓越する。

H24-D1-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、正断層成分が卓越する。

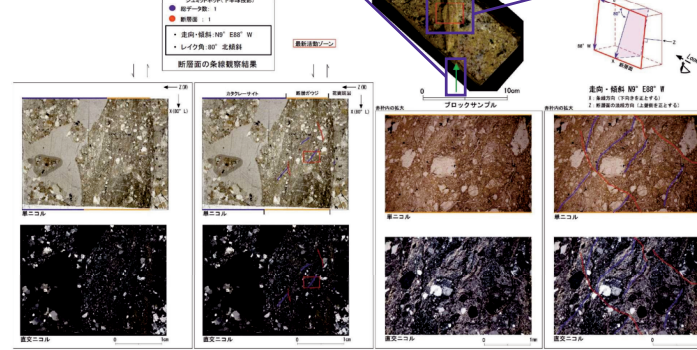
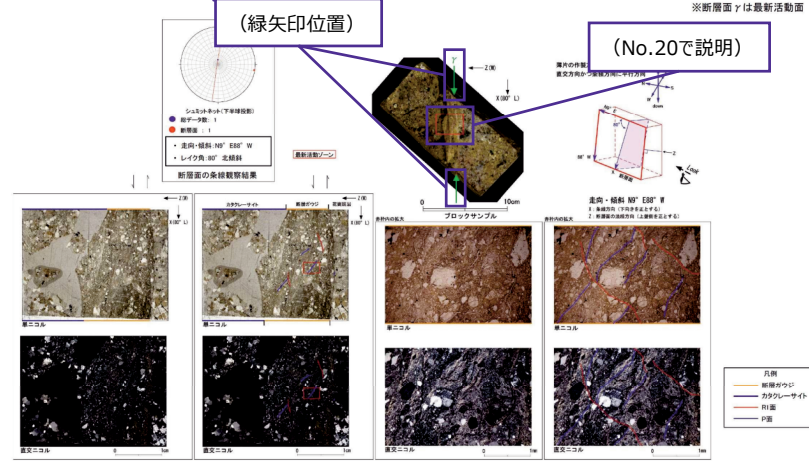
- 最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。
- (断層ガウジ)せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
- (断層ガウジ)粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- (断層ガウジ)丸みを帯びている岩片



参考1-25

No.最-10
(緑矢印位置)

(No.20で説明)



H24-D1-1 深度60.12~60.15m 最新活動面の位置 (No.最-10) を変更

• 変更後の最新活動面認定方法によると、H24-D1-1 深度60.12~60.15m の破碎部における最新活動面は60.15mの断層面であるため変更した。

- ボーリングコア観察において、深度60.12mに断層面 α , β , 深度60.15mに断層面 γ が認められる。
- 断層面 α は細粒部を伴い、湾曲及び凹凸が少なく直線性に富む。不連続部は認められず、連続性に富む。
- 断層面 β は細粒部を伴い、湾曲及び凹凸を有し、直線性に乏しい。一部不連続部が認められ、連続性に乏しい。
- 断層面 γ は細粒部を伴い、湾曲及び凹凸を有し、直線性にやや乏しい。一部不連続部が認められ、連続性にやや乏しい。

コア写真

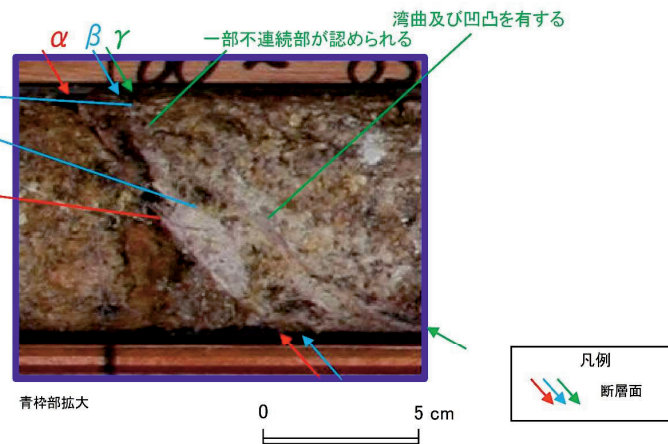


ボーリング柱状図

●60.12~60.15m: 破碎部 (G断層)
 60.12~60.13m: 粘土状部 (Hc-1)
 上端40° でほぼ直線的にシャープに、
 下端40° で波打って連続。上端に幅1
 mmの明赤灰色粘土を伴う。径1~2mm
 の石英粒と径5mmの粘土化した花崗斑
 岩の岩片をわずかに含む。軟質。灰
 白色を呈する。幅1~10mmと膨縮する
 。
 60.13~60.15m: 粘土混じり礫状部 (Hj)
 上端40° , 下端45° でともに波打っ
 て連続。下端に幅1mmの明赤灰色粘土
 を伴う。径5~10mmの花崗斑岩の岩片
 主体で岩片間に幅0.5mmの灰白色粘土
 を伴う。にぶい黄色を呈する。幅5~
 30mm。

凡例
 ← → 破碎部範囲*
 ※: 写真上は白色で記載

一部不連続部が認められる
 湾曲及び凹凸を有する
 湾曲及び凹凸が少なく不連続部
 が認められない
 一部不連続部が認められる
 湾曲及び凹凸を有する



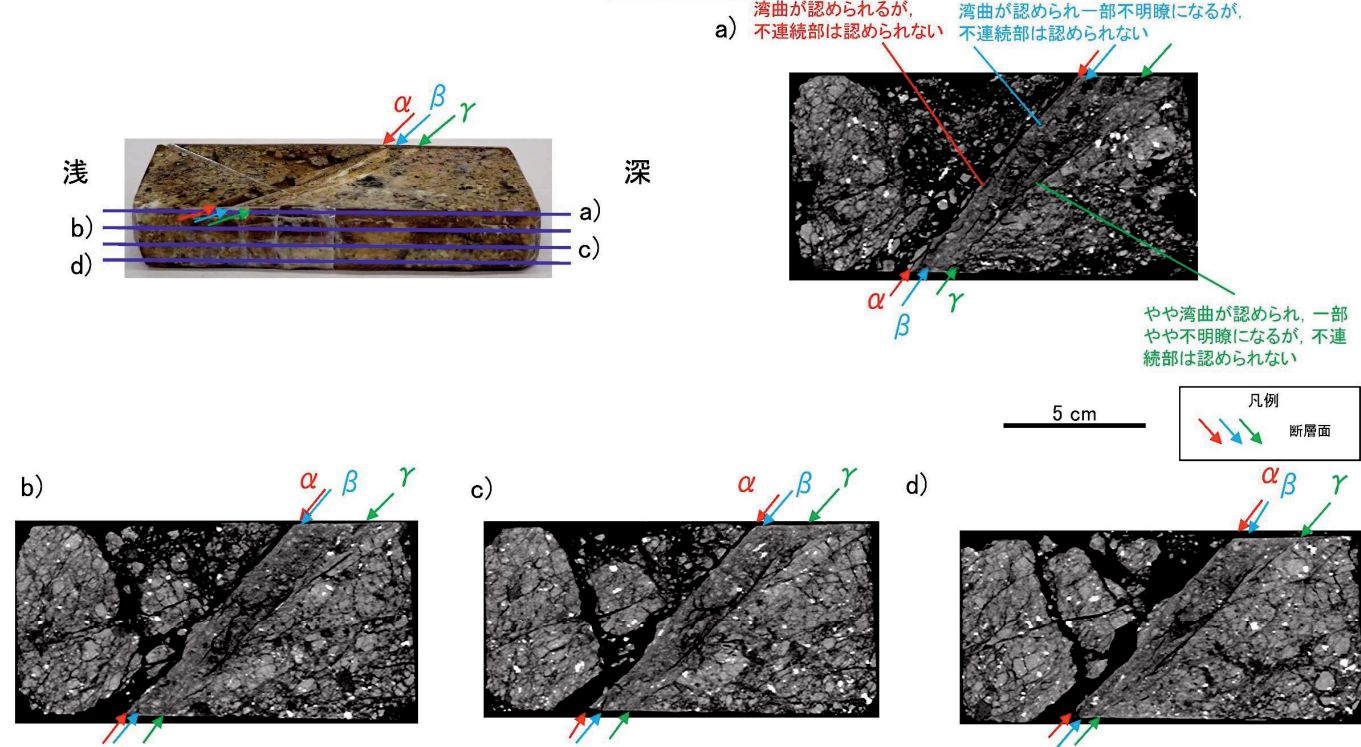
凡例
 断層面

第7.4.4.134図(1) 鉬物脈法 鉬物脈の確認 H24-D1-1 深度60.12~60.15m (ボーリングコア観察)

H24-D1-1 深度60.12~60.15m 最新活動面の位置 (No.最-10) を変更

- ・CT画像観察において、ボーリングコア観察の結果と同様に断層面 α 、 β 、 γ が認められる。
- ・断層面 α は三次元的に他の構造に切られておらず、湾曲が認められ直線性に乏しいが、不連続部は認められず、連続性に富む。
- ・断層面 β は三次元的に他の構造に切られておらず、湾曲が認められ一部不明瞭で直線性に乏しいが、不連続部は認められず、連続性に富む。
- ・断層面 γ は三次元的に他の構造に切られておらず、やや湾曲が認められ直線性にやや乏しく一部不明瞭になるが、不連続部は認められず、連続性に富む。

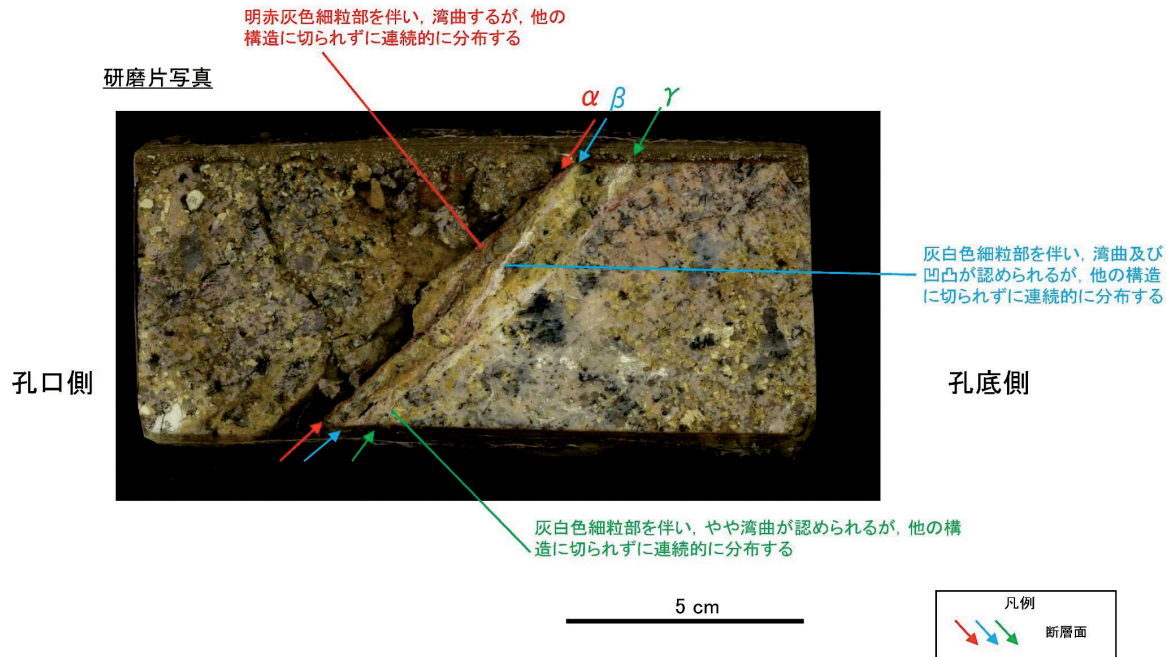
研磨片CT画像



第7.4.4.134図(2) 鉱物脈法 鉱物脈の確認 H24-D1-1 深度60.12~60.15m (CT画像観察)

H24-D1-1 深度60.12~60.15m 最新活動面の位置 (No.最-10) を変更

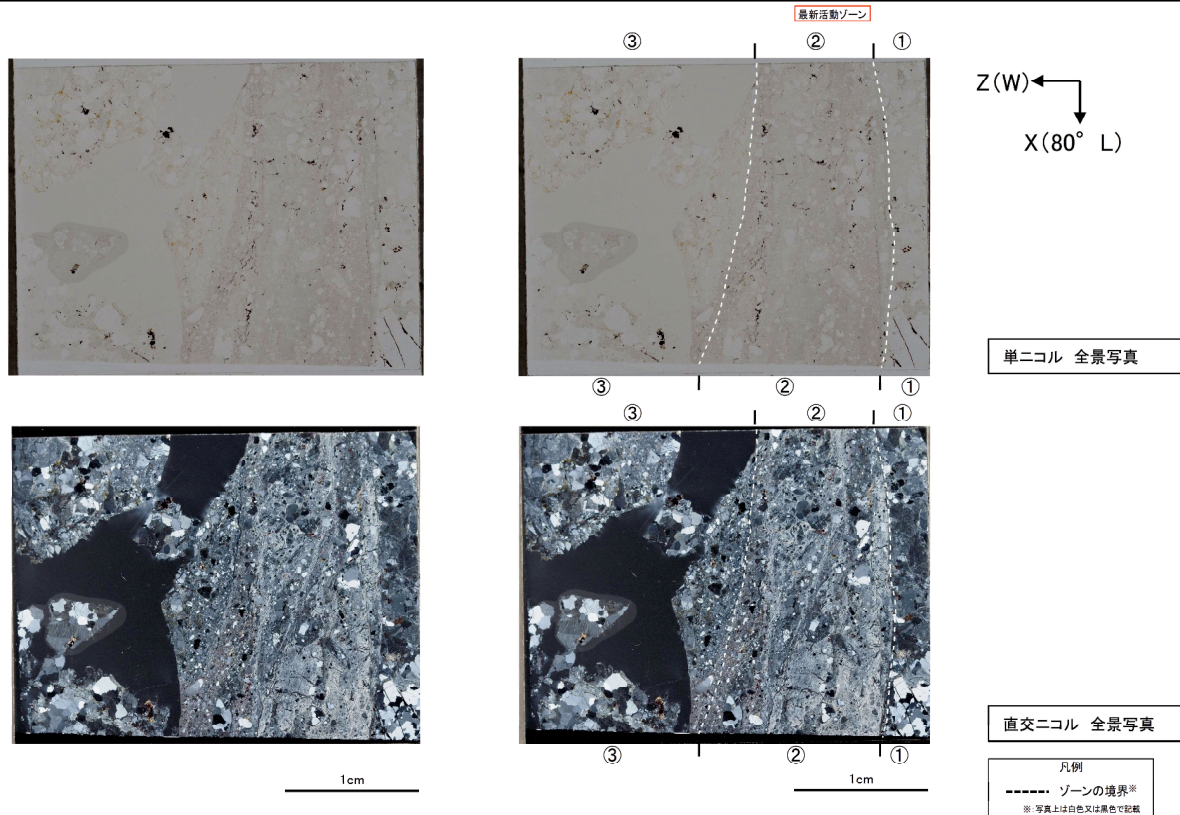
- ・研磨片観察において、CT画像観察の結果と同様に断層面 α 、 β 、 γ が認められる。
- ・断層面 α は、明赤灰色細粒部を伴い、湾曲して直線性に乏しいが、他の構造に切られずに連続的に分布する。
- ・断層面 β は、灰白色細粒部を伴い、湾曲及び凹凸が認められ、直線性に乏しいが、他の構造に切られずに連続的に分布する。
- ・断層面 γ は、灰白色細粒部を伴い、湾曲して直線性にやや乏しいが、他の構造に切られずに連続的に分布する。
- ・ボーリングコア観察、CT画像観察、研磨片観察より、細粒部を伴い、最も直線的な深度60.15mの断層面 γ を検討対象の断層面とした。



第7.4.4.134図(3) 鉱物脈法 鉱物脈の確認 H24-D1-1 深度60.12~60.15m (研磨片観察)

H24-D1-1 深度60.12~60.15m 最新活動面の位置 (No.最-10) を変更

- ・①のゾーンは、健岩部である。
 - ・②のゾーンは、粘土鉱物の量は③のゾーンより多く、粘土鉱物の定向配列が認められる。岩片は少なく、レンズ状及び丸みを帯びている。
 - ・③のゾーンは、粘土鉱物の量は少なく、粘土鉱物の定向配列は認められない。岩片は多く、角ばっている岩片が多い。
- 以上のことから、細粒化が最も進んだ②のゾーンを最新活動ゾーンと認定した。



第7.4.4.134図(4) 鉱物脈法 鉱物脈の確認 H24-D1-1 深度60.12~60.15m (分帯)

H24-D1-1 深度60.12~60.15m 最新活動面を示す赤矢印 (No.最-10) を変更

- ・深度60.15mにおける断層面 γ 沿いの最新活動ゾーンでは、他の構造に切られていないY面A, Y面B, Y面Cが認められる。その分布を以下に示す。
- ・Y面Aは直線性に富み、連続性に富むが、不明瞭化した領域も多い。細粒部を伴う。Y面B, Y面Cより直線性・連続性に富む。
- ・Y面Bは直線性に富むが、連続性に乏しい。細粒部を伴う。
- ・Y面Cは湾曲しており直線性に乏しいが、連続性に富む。細粒部を伴う。
- ・以上のことから、Y面Aを最新活動面と認定した。また、連続性に富むY面Cについても最新活動面の候補の面とした。

